

4月 月例報告書

1. はじめに

もう4月になってしまいました。去年の8月、緊張や不安、そして期待と共に渡米したことが昨日のことのようです。肌寒い日もたまにありますが、アメリカはすっかり夏です。この夏の温度や匂いが留学当初を思い出させ、懐かしい気持ちになるとともにもうすぐここを去らなければいけないという寂しい気持ちでいっぱいです。この月例報告書を書くのももう最後となりました。大好きなアメリカの夏とお別れするまでの私の日常を整理していきたいと思います。

2. Japan Night

4/3(水)に「Japan Night」といってキャンパスで約30人を相手に日本文化に関する体験活動を行いました。彼らは「Children's Mentoring Connection of Hancock County」というフィンドレーにあるNPO法人から参加してくださいました。彼らは主に一人親家庭や祖父母に育てられている子どもたちを対象とし、子どもの自信に満ちた成長の促進を目的としているそうです。子どもたち一人一人にMentorという彼らの日常生活をサポートする大人がついていました。わたしたち日本人留学生は、日本のお菓子と共に、日本に関するプレゼンテーション、アクティビティとして書道、カルタ、けん玉、折り紙、箸を持つ体験ブースを用意しました。私は、書道を担当したのですが、これまで日本文化を紹介する機会が多くあったので、その経験を活かし忙しくもしっかりと日本文化を届けることができたかなと思います。この活動で出会った高校生の子と仲良くなり、日本に来たいと言ってくれたので、その時は一緒に遊ぼうと約束しました。企画してくださった先生、そして日本人留学生全員が本当に素晴らしく、良い活動ができました。



3. Cherry Blossom Festival

ボーリング・グリーン州立大学にて、「Cherry Blossom Festival」が行われました。わたしたちは「Genki Kids」と一緒に活動した子どもたちと一緒に日本語の曲を2曲歌いました。また、日本人留学生だけではオタ芸を披露しました。会場には、多くのブースが用意されており、日本文化がこんなにも多くの人に愛されているのかと感動した記憶があります。また、私たちのステージを見るために、フィンドレーからわざわざ来てくれ

た友人たちもいて、本当に嬉しかったです。

4. Total Solar Eclipse

4/8はアメリカで7年ぶりの皆既日食でした！！！！！！！！！！私は日本でも皆既日食を見たことがあります、その時は小学1年生で、理科の授業で外を見たくらいであまり盛り上がった記憶がありません。ですが、アメリカでは約1ヶ月前からキャンパス内で日食グラスが配られ、当日は皆既日食を見るために授業がなくなり、街でも皆既日食を記念するTシャツ、ステッカーが販売、配布されるほどでした。私のハウスメイトはうちの屋根の上で肌を焼きながらみると言っていました、私はキャンパス内にある建物の前にある広場のような場所で見ました。人がとても多く、お祭りのようでした。太陽に月がかかる瞬間から皆既日食が完全に終わるまで、みんな大盛り上がりで、叫んだり歓声が上がってアメリカを感じました。アメリカの歴史的瞬間に立ち会えて、この年にアメリカに留学ができて私は幸せものだと思います。

5. Choir Concert

4/11,4/28に前期から履修してきたChoirの授業のコンサートがありました。両日ともに多くの友人が来てくれて、私たちの歌を楽しんでくれました。また、きてくれた友人、Choirのクラスメイトとはこの日が最後になってしまう人も多く、最後の対話をしながら手紙を渡したり、写真を撮ったり辛く寂しい別れをしました。先生とクラスメイトに恵まれ、毎週2回の授業に加え、初めての教会での合唱、コンサートツアーなど一生の思い出を与えてくれた全ての人に感謝します。



6. Final Exam

4月の最終週から5月2日まで、期末期間でした。Choirの授業はコンサートが期末扱いだったのでそれを除いて、私はプレゼンテーション1つ、レポート2つ、テスト2つを期末として提出しました。期末に向けて提出物やテスト勉強をこなすと同時に、最後の別れに向けて友人やお世話になった先生方に手紙を書いていたので、最後まで本当に忙しい日々でした。ですが、現地の学生と同じように英語でレポートを書いたり、テストをこなしたり、自分の成長を実感する場面も多かったです。フィンドレーで過ごす時間が増えるにつれて友人や先生、ハウスメイトからは「英語が本当に上手になったね」と言ってもらえることが増え、この期末期間にも褒めてもらう場面が何度かあり、約1年が過ぎたと実感すると同時に自分がどれだけのことをしてきたのか思い出すきっかけとなりました。これまでの授業で本当に多くの学びを得たので、最後の授業でお世話

になった先生方に手紙を渡した際は、グッと胸が詰まる思いでした。

7. Farewell Party

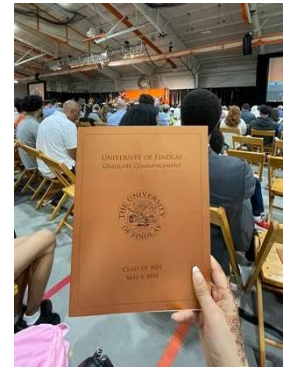
4/26 にお別れ会を行いました。これまでの留学で出会った人々、ほぼ全ての人を呼びました。来られなかった人もいましたが、多くの人に参加していただいて、良い留学の区切りをつけることができました。集まってくれた人々を見て、これだけ多くの人と関係を築けたことを誇りに思いました。最後のスピーチで何を言うべきなのか本当に迷いましたが、本音や感謝を伝えられたと思います。絶



対に泣きたくないと思っていましたがスピーチの後、友人一人一人と話している時に、たくさん泣いてしまいました。寂しいわと言って泣いてくれる友人、そして涙を流してしまうほど恋しい友人たちに出会えたことが私の人生にとってどれだけの価値があるのか、本当にアメリカに来てよかったです。

8. 卒業式

5/4 は卒業式でした。多くの友人が卒業生として参加していました。アメリカの卒業式というと、映画で見るような暗い色の角帽とガウンを羽織って行うイメージですが、それに加え、フィンドレーのカラーであるオレンジのスカーフや留学生であれば出身国の国旗をイメージしたスカーフを身につけており、とても素敵でした。卒業生一人一人が名前を呼ばれ、その家族や友人は歓声をあげます。顔パネルまで持参している人もいて、本当にアメリカでした（笑）映画で見ていた世界に飛び込んだ気持ちで、私もいつかアメリカの卒業式を卒業生として体験してみたいなんて憧れを持ってしまうほどでした。



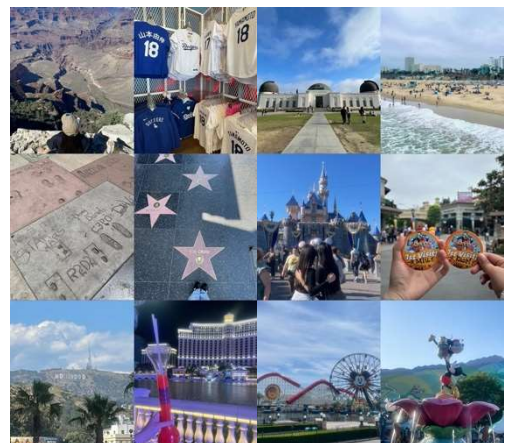
9. フィンドレーを発つまで

期末期間が終わってからフィンドレーを発つまで、この留学で出会ったほぼ全ての友人たちと可能な限り遊ぼうと思い、パッキングをしながらたくさん遊びました。自分から帰国前に遊びたいと多くの人に声をかけ、本当にたくさんの友人たちと共に時間を過ごしました。パッキングや手紙を書くことも忙しかったのですが、誘われた遊びは絶対に

断りたくなかったので、毎日早起きをして全ての誘いに参加してアクティブに過ごしていたと思います。キャンパス内にあるラジオステーションで動画を撮っている友人にインタビューをしてもらったり、ハウスメイトたちとネイルをしたり、片道2時間のハウスメイトの実家に連れて行ってもらったり、洗礼を受ける友人にお花をプレゼントしたり、ミシガンまでチューリップを観に行ったり、ハウスメイトにレストランに連れて行ってもらったり、友人の家でご飯を食べたりカフェやランチに行ったり、できるだけ多くの友人たちと時間を過ごそうと全力でした。頑張りすぎて、新しい出会いまで生まれたほどです。みんなとまた会おうと約束しました。その中でも、本当に大切な思い出があります。私はこの留学期間中、毎週キャンパス内にある日曜日に教会に通っていました。というのも、この留学中に自分にできることは全部したいと思い、ただ授業を受ける、友人と遊ぶだけでなく、もっとコミュニティを広げ、これまであまり関わりのなかった宗教という面で多くのことを学ぶためにも教会に行くことを習慣としていました。そこでは讃美歌を歌っている友人や教会でも指揮をしている Choir の授業の先生、牧師の方、教会で働かれています方とお話をしたり、参加できるイベントには参加をしていました。教会を訪れる日も残り数回となった頃、牧師の方が私と日本人の友人を呼び、多くの参列者の前で私たちを紹介してくださいました。その上、日本語でお祈りの言葉もかけてくださり、本当に感動しました。私はキリスト教徒ではないのでその言葉がどれだけ尊く意味のあるものなのか十分に理解することができませんが、英語話者しかいない教会で私たちのためだけに日本語の言葉をかけてくれたということに感無量でした。日本語を学んでいた秘書の方にもサポートしてもらい、何度も何度も発音の練習をしたそうです。これまで自分にとって何が足りていなくて何をすべきなのか模索しながら絶対に意味があると信じて通っていた教会でこのような体験ができたこと、そして温かい出会いに恵まれたこと言葉では表現しきれない感情になりました。私はここで多くのことを学んで、そして全てに意味があったと思えた瞬間でした。(良い写真がありすぎて選べませんでした！)

10. 最後の旅行

フィンドレーを発ち、5/7～5/14 の期間にラスベガスとロサンゼルスを訪れました。グランドキャニオンやディズニーランド、グリフィス天文台、ドジャーススタジアム、ハリウッド、サンタモニカビーチを楽しみました。その中でもグランドキャニオンはとても美しく、印象的です。広大な自然に囲まれて、世界にはこんなに素敵な場所があるのかと感動しました。また、ドジャーススタジアムに限らず、街中では大谷翔平



の電光掲示板やユニフォームがたくさん見られ、日本人としてアメリカで活躍する大谷翔平は本当にすごいんだと実感しました。

11. おわりに

この約10ヶ月間を振り返ると、悩みながらも本当に楽しい思い出ばかりでした。今この報告書を日本から書いていますが、私がアメリカにいたということが夢のようです。悩んだ日も悲しくなった日も今思うと全てが幸せでした。それは全て私がたくさんの挑戦から得たものだからです。中学生の頃から英語圏へ留学することが人生の一つの目標で、これまで留学することを念頭に多くの決断をしてきたので、この留学を通して大きく成長したいと強く思っていました。勉強も遊びも両立し、英語の面はもちろん人間的にも成長できたと思います。授業からも日常生活からもたくさんのことを学びました。正直、アメリカにもっと居たい！帰りたくない！アメリカに住みたい！なんて何度も思いました。しかし、日本への帰国が近づき、悲しい気持ちももちろんありましたが、この留学を経て日本で自分はどのようなことができるだろうかと考えることが増えていきました。それは、この留学で出会った友人との別れやフィンドレーを去る悲しみからの逃避なのか、それとも精神的に成長し、未来に目を向けることができているのかはわかりません。ですが、強く願い、行動すればいつだって友人たちと再会できると信じています。より成長した姿でまたみんなと再会できるように、この留学での経験を生かし、日本でも一生懸命生きる私になりたいです。

